

Multi-Parallel MMT アルゴリズムによる高次元SDP の解読 Multi-Parallel MMT Algorithm for Solving High-Dimensional SDP

成定 真太郎*
Shintaro Narisada

福島 和英*
Kazuhide Fukishima

清本 晋作*
Shinsaku Kiyomoto

キーワード シンドローム復号問題 (SDP), 符号暗号, Information Set Decoding (ISD), Graphics Processing Unit (GPU)

あらまし

シンドローム復号問題 (SDP: Syndrome Decoding Problem) は, 符号暗号の安全性の根拠となっている問題である. シンドローム復号問題を効率的に求解するアルゴリズムとして, Information Set Decoding (ISD) が知られている. ISD は, 組み合わせ理論に基づいて SDP の解となる符号を確率的に求める手法の総称であり, これまでに Dumer [1], May–Meurer–Thomae (MMT) [2], Both–May [3] といった多くの ISD が提案されてきた. これらの論文においては, 各アルゴリズムの漸近計算量の解析が行われており, 例えば Full Distance Decoding と呼ばれる問題設定においては, SDP の問題次元 n に対して, Both–May の計算量が $2^{0.0885n}$ となり, 提案された ISD の中で最も高速となる. 一方で, 実際の符号暗号に関連付けられる実用的な問題サイズの SDP に対して, ISD の計算量を解析する Estimator に関する研究も行われている [4].

符号暗号の安全なパラメータセットを見積もるためには, 攻撃者が SDP をどの程度の難しさまで解読できるかに関して, 理論面のみならず実装面においても検証することが大切である. ISD の高速実装に関しては, Dumer のアルゴリズムの FPGA 実装 [5] および GPU 実装 [6] に関する既存研究があるが, 計算量の面に関して, 他の ISD との比較検討が不十分であった. 本稿では, いくつかの実際の SDP インスタンスに対して, メモリを制限した場合における各 ISD の最適な計算量を解析する. 結果として, 漸近計算量の結果に反して, 最近傍 (NN: Nearest Neighbor) 法を使用しない手法では MMT が, NN を使用する手法では May–Ozerov [7] が最も計算量が小さくなる場合があることがわかった. さらに, MMT に対し

て, 多並列最適化の検討を行い, MMT に対する GPU アルゴリズムである Multi-Parallel MMT を提案する. Multi-Parallel MMT は, 著者らの知る限りでは MMT に対する最初の GPU アルゴリズムである. また, GPU 上で Multi-Parallel MMT による SDP の解読実験を行い, SDP の解読状況のベンチマークである符号暗号の暗号解読コンテスト [8] における SDP Challenge において, 新記録となる 510 次元および 530 次元の解読に初めて成功したことを報告する.

参考文献

- [1] Ilya Dumer. On minimum distance decoding of linear codes. In *Proc. 5th Joint Soviet-Swedish Int. Workshop Inform. Theory*, pp. 50–52, 1991.
- [2] Alexander May, Alexander Meurer, and Enrico Thomae. Decoding random linear codes in $\tilde{O}(2^{0.054n})$. In *International Conference on the Theory and Application of Cryptology and Information Security*, pp. 107–124, 2011.
- [3] Leif Both and Alexander May. Decoding linear codes with high error rate and its impact for lpn security. In *International Conference on Post-Quantum Cryptography*, pp. 25–46, 2018.
- [4] Andre Esser and Emanuele Bellini. Syndrome decoding estimator. *Cryptology ePrint Archive*, Report 2021/1243, 2021.
- [5] Stefan Heyse, Ralf Zimmermann, and Christof Paar. Attacking code-based cryptosystems with information set decoding using special-purpose hardware. In *PQCrypto 2014*, pp. 126–141, 2014.
- [6] Shintaro Narisada, Kazuhide Fukushima, and Shinsaku Kiyomoto. Fast GPU implementation of dumer’s algorithm solving the syndrome decoding problem. In *IEEE ISPA 2021*, pp. 971–977, 2021.
- [7] Alexander May and Ilya Ozerov. On computing nearest neighbors with applications to decoding of binary linear codes. In *Annual International Conference on the Theory and Applications of Cryptographic Techniques*, pp. 203–228, 2015.
- [8] Nicolas Aragon, Julien Lavauzelle, and Matthieu Lequesne. decodingchallenge.org, 2019. <http://decodingchallenge.org>.

* KDDI 総合研究所, KDDI Research, Inc.